

# 支えあい地域絆をつなぐ

住み慣れた地域で安心して住み続けるために… あなたのほんの少しの行動で助かる人がいます

団塊の世代が75歳以上となる2025年以降は、医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれています。串間市は、現在の高齢化率が約37%で県内9市の中でもトップ。2030年には45%を超え、2・2人に1人が65歳以上の高齢者となると推計されています。

今後、高齢者の生活に関わるあらゆる場面で、これまで以上のサポートが必要となるのは必然であり、地域の実情にあった医療、介護、予防、住まい、生活支援が確保される体制づくりに取り組んでいく必要があります。串間市では、こうした取り組みの第一歩として、専門家や団体などが参加

し、高齢者が生活する上で、不安や心配なこと(課題・問題)から住み慣れた地域で生活するための方法(支援・解決策)を考えるため「地域ケア会議」を定期的に開催しています。地域ケア会議は、さまざまな専門家

や団体などが集まり、支援が必要な方の支援内容や地域の課題、その解決策などを検討しています。

## 串間市の取り組み

個別ケース会議の取り組みに加え、平成26年度から地域に根差した会議として「小地域ケア会議」を始めました。その取り組みから地域として市全体の課題が見えてきました。課題の解決策として、個人でできること・地域でできることの提案やアイデアを、市民へ向けたメッセージにしていくことでテーマを決めました。次年度は、次の3つのテーマをもとに地域ケア会議を進めていきます。

## まずはみんなでやってみよう!!

高齢者にやさしい地域の輪を広げよう!!

### みんなでやろう! 3つのテーマ

**みんなで声をかけあおう**  
あなたの一声が安心を与え、孤独から救われます

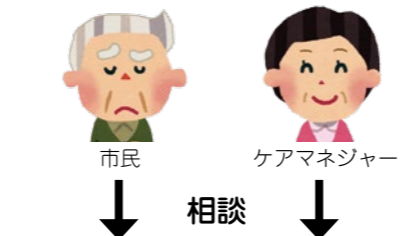
**ふれあいの場に参加しよう**  
あなたの笑顔でみんなの心が温まります

**ゴミ出しの支援をしよう**  
あなたの勇気ある行動で助かる方がいます



**お困りごとはありませんか?**  
地域包括支援センターでは、高齢者に関する相談や悩みを聞いています。主任介護支援専門員、社会福祉士、保健師などが中心となって支援を行います。ひとりで悩まず、まずはご相談ください。地域包括支援センターへ行けない場合でも、職員が訪問することもできますので、お気軽にご連絡ください。  
串間市地域包括支援センター ☎72-0023

例：一人暮らしで、認知症の方の相談が増えている  
例：高齢者の二人暮らしも増えて老老介護になっている



個別を支援する会議  
**個別ケース会議**  
(地域包括支援センター)  
市民やケアマネジャーなどからの相談や悩みを受けて、高齢者の方が安心して生活できるように話し合いをします。地域の課題となることは、小地域ケア会議・地域ふれあいケア会議へつなげていきます。  
＜参加者＞  
介護支援専門員、福祉事務所、医療介護課、その他ケース事例に応じて参加

課題

地域の課題を考える会議  
**小地域ケア会議**  
(福島、北方、大東、本城、都井、市木)  
各地区ごとに会議をしています。地域でやっていることや地域の課題を共有したり、地域の取り組みなどを考えます。



本当に介護を必要とする方がいるよ。見守りや声かけがあると良いな。  
買い物・ゴミ出しできなくなったら、助けてほしいな。

＜参加者＞  
自治会連合会、高齢者クラブ連合会、生涯学習専門指導員、民生委員児童委員連絡協議会、健康づくり推進委員、食生活改善推進員、各支所など

課題

市全体で共通する課題を考える会議  
**地域ふれあいケア会議**

この会議では、市全体で取り組める事アイデアを出し合い、高齢者の方一人ひとりが安心して生活ができる事を考えています。



声かけ運動。回覧板を回すときは、顔を見て様子が見れるといいなあ。



＜参加者＞  
小地域ケア会議委員、南那珂医師会、串間市社会福祉協議会、串間警察署、串間市消防署、串間郵便局、宮崎県日南保健所、串間市役所など

## 地域のアイデアを実行し安心したまちづくり

誰もがこの住み慣れた串間で安心して暮らしていける地域づくりを目指しています。串間市の地域包括ケアを実現するために、一人ひとりが、地域に目を向け、みんなで助け合える串間となるよう会議に取り組んでいます。

問い合わせ先 医療介護課 介護保険係 ☎72-0333

**インタビュー**  
地域ケア会議に参加されている山口さんと水元さんに高齢者のつながりについてお話を聞きました。

**「横のつながりが大事」**  
生涯学習専門指導員 **山口 すが子**さん  
人と出会うことが大事。地域で気楽に集まれるような場所があるとそこに出会いが生まれ、人の輪も広がると思います。リーダーになって声掛けてくれるような方がいると集まりやすいかもしれませんね。あいさつを交わしたり、イベントに誘いあったりと小さなことを続けることが大切ではないでしょうか。

**「まずは足元の地域から」**  
食生活改善推進員 **水元 美保子**さん  
今は不自由なく暮らせていても、いずれは自分たちにも手助けが必要な日がやってきます。先のことと思わずに、まずは足元の地域から声掛けなどをしてつながりを深めながら、ひとつずつ身近な問題を解決していけたらと思います。「自分は自分」という考えではなく、つながりを大切にしたいですね。